

今月の

ブックトーク

「夜は不思議な時間？」

鈴木千尋／和光小学校学校司書

秋が深まるにつれて少しずつ夜の時間が長くなっていく「秋の夜長」とよばれるこの時期。夜という時間帯はいつもと違うことが起こりそうな気がしますよね。



セラ・L・トムソン・文
ロブ・ゴンサルヴェス・絵
金原瑞人・訳
ほるぷ出版

「終わらない夜」は見れば見るほど不思議な絵に「夜、」で始まる詩を添えた本です。「夜、月の光が水面をてらす。かすかにきこえるだれかのあしおと」という詩と共に広がる表紙にもなった絵は、水面に映る木々が途中から女性の姿に変化しています。どのページにも、夜のあいだの不思議な出来事が描かれています。切り抜いたカーテンが星空の街になったり、部屋と夜の森が一体化していたり…。怖いくらい美しく神秘的な夜の世界をお楽しみください。

こちらの小学校でも夜に不思議なことが起こるようです。「夜の小学校で」しばらくの間、佐倉若葉小学校の夜の警備員の仕事をすることになったぼく。最初の夜少しドキドキしながら校舎をまわると、並外れて大きい男の人が運動場いっぱいに座って静かに満月を眺めていて、腰を抜かしそうになりました。また別の日には、服を着たお母さんウサギがやってきて踊りながらおいしいスープを作ってくれたり、アライグマが心地よく丁寧にシャンプーをしながらぼくの話がたくさん聞いてくれたり…。驚くようなことが次々起こりますが、どれも穏やかでクスクス笑いたくなるような出来事ばかりです。



岡田 淳・作・絵
偕成社

10月の終わり、いよいよ夜警の仕事の最終日の夜、すべての出来事がつながる素敵なことが起こります。場所は夜の図書室。ぜひ一緒に最後の夜を見届けてください。

次は夜警から隠れる2人の子もたちの話。皆さんはもし家出をしたら、どこに行きますか？

11歳の少女クローディアは、自分よりお金をためこんでいる弟のジェイミーを相棒に家出を計画します。行

先はなんと、ニューヨークのメトロポリタン美術館。閉館後に見回る夜警から身を潜めて、誰もいない広い美術館で生活することにします。天井がとても高く、暗闇がいっぱい詰まった夜の美術館で、かび臭いけれど豪華な展示



E. L. カニグズバーク・作
松永ふみ子・訳
岩波書店

品のベッドに寝たり、噴水をお風呂代わりにしたり…。屋は入館者に紛れて美術の勉強をしているうちに、特別展示された天使の像が有名なミケランジェロの作品かどうかという謎につきあたり、夢中になって調べ始めます。謎を解きたい強い気持ちで、ある老婦人との出会いにつながり、新たな秘密をわかちあうことになります。最後には2人すら知らない秘密を、読者は知ることになりますよ。

秋の夜は、月が特にきれいに見えるそうです。



大枝史郎・文
佐藤みき・絵
あすなろ書房

「月の満ちかけ絵本」は29日半周期で繰り返す月の満ち欠けを由来や風習と共に教えてくれる1冊です。新月や満月だけでなく十六夜、立待月など昔から人々の生活の近くに月があったことがよくわかります。秋の満月のページには、満月の

謎についても書かれています。

今年の中秋の名月・十五夜は10月6日。

秋の夜長に空を見上げて、夜のも不思議を感じてみませんか？

